

【部会・分科会活動報告】 2018年11,12月度

食品 安全 研究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 12月上旬に関係者で打ち合わせを実施。統一検査法の普及に向けて2019年3月末を目途に活動を継続し、その結果も踏まえてさらに継続するか判断する予定。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 11/1にNITEと打ち合わせを実施し、現在結んでいる連携体制をさらに2年間(2021年3月末迄)継続する方向で合意した。 また2/1,8実施のNITE主催MALDI実技研修へのILSI参加枠設定や、2/15の情報交換会開催を調整した。</p> <p>(3) チルド勉強会 活動の一つとして耐熱性試験法検証案を取り纏め、参加企業を募った。また、ボツリヌス菌制御に関する活動に興味を持つ企業に呼びかけて日本缶詰びん詰レトルト食品協会 大久保先生を訪問し、ボツリヌス菌の制御手段や接種試験についてお話をうかがった(12/26)。</p> <p>(4) NGSプロジェクト <i>Food Microbiology</i> 誌に投稿していた総説が無事受理された。 3/6 公開シンポジウムの開催に向け、準備中。ILSI Japan ホームページ上でプログラムを公開し、参加募集を開始した。</p> <p>2. 2018年度 第4回部会全体会議(11/20) (株)明治 明治イノベーションセンターにて部会を開催した。部会および勉強会に30名、意見交換会に25名の参加であった。 明治様のご協力で研究所内の見学会が実施された。</p> <p>勉強会講師として元・日本缶詰びん詰レトルト食品協会 駒木先生にボツリヌス菌について講演いただいた。豊富な事例を交え歴史的な経緯を辿りながら、下記の内容についてご講演いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内のボツリヌス食中毒の発生状況 ・国内の容器包装詰殺菌食品の法的規制の現状 ・ボツリヌス菌接種試験の概要 ・加工食品におけるボツリヌス菌接種試験
---------------------	-----------	--

食品リスク研究部会	<p>1. 部会活動</p> <p>1) 12/13、ライオン（株）平井研究所にて部会を開催した。WG3 及び AAT-Project（食品安全性評価領域の動物実験代替法推進プロジェクト）より活動報告を行った。29 名参加。</p> <p>2) 講演会：部会同日に講師をお招きして下記の AI-SHIPS に関する講演会を開催した。34 名参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI-SHIPS 開発センター事務局長 東京大学 庄野文章先生「プロジェクトの概要 その推進と今後の展開について」 ・昭和薬科大学 山崎浩史先生「一般化学物質の経口吸収過程を含む生理学的薬物動態モデル構築の取り組み」 <p>3) ワーキンググループ活動</p> <p>食品リスク評価課題解決ワーキンググループ（WG3）：高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信をテーマに活動を行っている。高齢者の食品安全リスク評価におけるポイント抽出のため、食品安全委員会の評価書ならびに「高齢者の医薬品適正使用の指針」などから加齢に伴う安全性上の注意点を抽出した。今後、さらに食品－医薬品相互作用情報の調査を行う。</p> <p>2. プロジェクト活動</p> <p>ILSI Japan AAT-Prj</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ILSI Europe とのコラボによる 2020 年国際ワークショップの組織委員会メンバーとして ILSI Japan から小島肇先生（国衛研）、真鍋（味の素株）、中村氏及び徳田氏（事務局）が参加することとなった。 ・取り組み方針（案）に対するヒヤリング：10/26-27 にかけて企業メンバーで集中的に議論した取り組み方針（案）についてアカデミア委員よりご意見をいただいた。 ・12/13 にライオン（株）平井研究所にて上記ヒヤリング結果を参加企業にフィードバックし、今後の取り組み方針を議論、確定した。実効性を高めるため、「吸収性予測」と「食品データベースの構築」の二つのワーキンググループを発足した。 ・NITE（独立行政法人 製品評価技術基盤機構）へのフィードバック：HESS（Hazard Evaluation Support System）を各社検証し、使用した感想をまとめて NITE に報告した。
香料研究部会	
バイオテクノロジー研究会	<p>1. 2018 年 11 月 7 日（水）「遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価に関するワークショップ」をベルサール八重洲で開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産官学、計 73 名が参加。 ・Dr. Andrew Roberts (ILSI RF, US)、Dr. Adinda De Schrijver (Scientific expert for The Belgian competent authority)、Dr. Facundo Vesprini (Risk assessor Biotech Directorate Argentine MOAg)、Dr. Shuichi Nakai (Bayer crop science) が、大澤良先生（筑波大）、黒川俊二先生（NARO）および後藤秀俊氏（ILSI Japan）より発表。それぞれの知見の紹介、ならびに当研究会が論文投稿したデータトランスポートビリティに関する発表を行った。 ・“隔離ほ場試験が適切な方法かつ十分な規模で行われている場合、試験結果は導入遺伝子の知見にかかわらずデータトランス

		<p>ポータビリティがある”という点について一定の合意が得られた。</p> <p>2. 2018年度 第6回目会議を12月7日に開催</p> <p>(1) ERAプロジェクト調査報告 第42号の勉強会： ・10報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p>(2) GM微生物食品について： ・来春に「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」WS開催 準備状況について共有化。 ・「高度精製飼料添加物の届出制度」新制度について情報提供</p> <p>(3) GM作物について： ・2018年11月ERAワークショップ(1に前述)共有化 ・「日本におけるGM作物のERAの歴史」 年内に執筆作業はほぼ完了。林先生による報告会は来春GW明け頃に予定。 ・2019 IS Biosafety Research (旧称: ISBGMO) 準備状況報告。</p> <p>(4) 2018年11月12日開催、部会長会議について ・部会長より参加報告がなされた。</p> <p>(5) そのほか TC34/SC16 国内対策委員会について ・橋本名誉部会長がTC34/SC16 国内対策委員会 GMO分科会の委員となることが決定された。</p>
栄養健康研究会	栄養研究部会	<p>1. 研究会長・部会長会議(11月12日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度の栄養研究部会の活動を報告。 ・2019年度の栄養研究部会の活動方針を報告。
	GRプロジェクト	第4回GR法多施設試験(2019年1月~3月を予定)準備
	茶類研究部会・茶情報分科会	
食品機能性研究会		
寄付講座 「機能性食品ゲノミクス」		
健康な食事研究会	ワーキンググループ1(WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築	<ul style="list-style-type: none"> ・第12回勉強会11/22 東大佐々木研で打合せを実施した。報告書案の最終確認。考察の最後の部分をどうまとめるかについて議論。内容は、「グローバル化」、「ハイテンポ」の時代背景を加味し、①世界の中の日本という中で日本食を取り扱うこと、②時系列を持って日本食を取り扱うことの両方を記載した。 ・報告書として12/17にILSIへ提出し、WG2,3に共有した。 ・次回は、第13回勉強会1/25 東大佐々木研 次に何をやるかのブレストを行う予定。
	ワーキンググループ2(WG2) 外食・中食・給食の実態把握	<ul style="list-style-type: none"> ・11月~12月ヒアリング完了9社 アンケート完了2社 ・12/19進捗確認ミーティング(14名参加) ILSI Japan 会議室 日本惣菜協会からご紹介いただいた中食企業を中心にヒアリング内容を確認した。議事録はWG1,3に共有した。 A(1社インタビュー完了、1社アンケート調査完了) B(3社インタビュー完了、1社アンケート調査完了、1月1社インタビュー予定) C(4社インタビュー完了。12月中1社インタビュー予定) ・グループAは継続してヒアリングし、グループB, Cは外食産

		<p>業に関しても訪問リストを用意して、分担する予定。中食産業はインタビューとアンケート合わせて合計 12 社で終了予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2/4 の全体会議で報告する内容は事前にメールで共有する。 ・ 日本惣菜協会及びご協力いただいた中食企業に 2/21 の進捗報告会をご案内する。
	ワーキンググループ 3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康経営活動企業への食に関するヒアリングを 11 月に 3 社実施。<累積ヒアリング状況 9 件>・地方自治体：2 県・企業：7 社 ・ 次回ミーティング (1/23 ILSI Japan 会議室) にて、これまでのヒアリングで得られた知見 (9 件) のまとめ (共通する成功・失敗要因の抽出) と、本年の活動内容について議論する。
	研究会全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康な食事研究会進捗報告会 (日時：2019 年 2 月 21 日 於：日本橋公会堂) に関して、ILSI Japan 会員企業へメールで 12/20 に連絡した。 ・ 進捗報告会の講演者は、健康な食事研究会の各 WG リーダーの他に以下の先生 2 名をお願いした。 <ul style="list-style-type: none"> □講演 1 日本食パターンが心身の健康に及ぼす影響について 東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学専攻公衆衛生学分野教授 辻 一郎 □講演 2 健康寿命延伸への取り組み メタボとフレイル 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事 国立健康・栄養研究所 所長 阿部圭一 ・ 2/4 第 7 回全体会議 ILSI Japan 会議室 進捗報告会発表内容確認、進捗報告会フラッシュレポート担当者決定 (「イルシー」誌 139 号・5 月中旬原稿締め切り)、10 月「栄養とエイジング」国際会議までのスケジュール確認 (「イルシー」誌 140 号・7 月末原稿締め切り、「イルシー」誌 141 号・11 月中旬締め切り)
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11 月 7, 9, 13, 16, 21, 27 日 すみだテイクテン教室 (スポーツプラザ梅若, 墨田区総合体育館, すみだ女性センター) ・ 11 月 12 日 墨田区介護予防サポーター養成講座 (墨田区役所) ・ 11 月 20 日 江戸川人生総合大学介護健康学科 1 年次講義 (篠崎文化プラザ, 江戸川区) ・ 11 月 27-28 日 島根県の IT 企業における介入試験に関し島根大学等と打ち合わせを実施 (島根大学) ・ 12 月 5, 7, 11, 19, 21, 25 日 すみだテイクテン教室 (スポーツプラザ梅若, 墨田区総合体育館, すみだ女性センター) ・ 12 月 6 日 すみだテイクテン自主グループサークル (スカイテイクテン (オレンジルームむこ 3 墨田区)) ・ 12 月 12 日 すみだテイクテン自主グループサークル YY テイクテン (中ノ郷信用組合本店 墨田区)
	Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト	<p>◇ インドネシア</p> <p>11 月 11-16 日 現地日系給食業者による改善した工場食とテイクテンを組み合わせた健康的な食生活導入へ向け、研究委託先のボゴール農科大学と打ち合わせを実施 (ボゴール, デルタマシティ)</p> <p>◇ カンボジア</p> <p>被験者が栄養強化米の摂取頻度が低い等の問題があり、強化米導入と健康教育に関し、RACHA と実施工場のマネジメントとで対策を協議</p>
	CHP 全体	特になし

国際協力委員会	委員長交代のお知らせ： 平成 28 年 4 月より国際協力委員会委員長を務めていたネスレ日本(株)の高橋智子氏が年内で退任し、平成 30 年 1 月より新委員長に長瀬産業(株)の松山菜月氏が着任することが委員に報告された。 平成 30 年の初回委員会については、1 月 31 日（木）の 16:00 から開催予定である。
情報委員会	1. 「栄養学レビュー」 ・ 27 巻 1 号、通巻 102 号、版組終了→11/10 発刊→HP 公開 ・ 27 巻 2 号、通巻 103 号、6 論文、70 頁、翻訳締め切り 10/20（翻訳終了→監修終了、編集部加筆中）、発刊 2019/02/10 予定
編集部会	・ 「イルシー」誌 136 号発行 ・ 「イルシー」誌 137 号編集 ・ 「イルシー」誌 138 号～140 号原稿依頼検討、編集

【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第 6 回理事会が平成 30 年 12 月 21 日（金）に開催された。</p> <p>I. 決議事項</p> <p>議案：① 2018 年度収支見込最終案、② 2019 年度収支予算最終案</p> <p>① 2018 年度収支見込み最終案</p> <p>連結ベースでは、収入 67.6 百万円、支出 73.2 百万円、差引 5.6 百万円の損となる（予算に対して 0.7 百万円の改善）。プロジェクト基金連絡会（後述 PFC と略す）の資金の用途については、11 月 19 日に会長、理事長、桑田副理事長をメンバーとする審査会において各研究会・研究部会の申請案件を審議し、ILSI Japan（以下 Japan）に 0.6 百万円、ILSI Japan CHP（以下 CHP）に 7.9 万円の援助とした。</p> <p>Japan は予算の収支差額より、2.6 百万円改善し、CHP は 1.6 百万円の悪化であるが、その損失には NJPPP（栄養改善事業推進プラットフォーム）関連の経費の前倒し分が 3 百万円程含まれており、これを除くと 1.4 百万円の収支改善となり、連結ベースでは 4 百万円の改善となる。</p> <p>また PFC の資金の用途については、毎年資金提供の企業には報告することが確認された。</p> <p>採決したところ、異議なく承認された。</p> <p>② 2019 年度収支予算最終案</p> <p>2019 年の収支予算案について連結ベースでは収入 84.1 百万円、支出 87.8 百万円、差引 3.7 百万円の損失となり、前年より損失額は 1.9 百万円減少する。</p> <p>PFC の資金の用途については、11 月 19 日に前述のメンバーによる審査会にて各研究会・研究部会からの申請案を審議し、Japan</p>
-----	--

の研究部会に 0.9 百万円と「栄養とエイジング」国際会議に 3.0 百万円、CHP に 4.6 百万円とした。

Japan の収入 67.8 百万円、支出 72.0 百万円で、差引 4.1 百万円の損失となる。損失の主な要因は、「栄養とエイジング」国際会議開催費用及び会費収入の減少による。CHP は収入 19.7 百万円、支出 19.2 百万円で差引 0.4 百万円の益となる。この数字には NJPPP 関連費用の前倒しがあり、実質は 2.6 百万円の損失となる。その結果、期末繰越額は、来年度末で連結ベース 82.0 百万円となる予定。

採決したところ、異議なく承認された。

II. 報告／討議事項

1. 研究会活動の活性化

1) 研究会活動の活性化

ア) 栄養とエイジング国際会議

初日、2 日目のプログラム講演者の 9 割が決定した。また、上原記念生命科学財団助成金 1.0 百万円の授与が決定した。

イ) 健康な食事研究会進捗報告

来年 2 月 4 日に全体会議を開催し、支部総会の会場で予定している「進捗報告会」の内容の確認をする。議題の原案の説明があり、最終報告は「栄養とエイジング」国際会議で実施することが報告された。

ウ) 食品安全性評価領域の動物実験代替プロジェクト

今後の進め方について、中江理事のアドバイスを基に、「情報収集」、「情報発信」、「研究推進」の 3 つのフレームワークを設定する。研究推進の重要テーマ「吸収性予測」、「食品データベースの構築」についてはワーキンググループを組織して進める。ILSI Europe と協働して 2020 年 10 月には、アジア・ワークショップ（東京）の開催を検討中。

エ) CHP

Project IDEA は、従来は鉄を使用した栄養改善活動であったが、今後は途上国の栄養バランスの改善をめざすプロジェクト活動として、Project DIET と略称する。カンボジアにおける職場の栄養改善を目的とした活動について、人間総合科学大学の中西先生が 10 月末に現地に出張し、ベースラインスタディを実施した。新たに NJPPP プロジェクトとして、インドネシアの日系企業の職場食堂における栄養改善活動を京都の都（みやこ）給食と共同で実施することが、NJPPP の運営委員会にて承認され、1 月から現地を進めることになった。

島根県の IT 企業が「健康経営」の観点から従業員を対象としてテイクテンのチェックシートを活用した栄養啓発活動等のプログラムを実施する方向となり、島根大学及び当該 IT 企業のパートナーとして、11 月に打合せを実施した。

オ) 会議報告

- バイオテクノロジー研究会 11/7 ERA 国際ワークショップを開催した。遺伝子組み換え植物の生物多様性影響評価に関するワークショップ、副題 隔離圃場試験のデータトランスピリティに関する考察とし、内外の学者ら 8 名による講演とパネルディスカッションを実施した。
- 第 9 回「日本くすりと食品機能フォーラム（認定薬剤師研修

	<p>講座) 」を 11/25 に開催。講演演題は、① 「緑茶成分と機能性～テアニンと茶カテキンを中心として」太陽化学、② アミノ酸の機能～ロイシン高配合必須アミノ酸と機能性表示食品～味の素。受講者数は 185 名、累計で約 1,000 名に達した。次回は来年 7/28 を予定。</p> <p>2) ILSI 本部関連報告</p> <p>2019 年 1 月 8～13 日まで開催の 2019 年本部総会のプログラムサマリーを紹介。理事会・総会については、チェアマンの交代があり、ガバナンス面の本部理事会構成員の役割定義と実現の実施プロセスの検討をする。</p> <p>サイエンス・プログラムとして、テーマの説明と 6 セッション構成の内容を説明した。日本からは東京大学の生命環境科学系助教授の笹井浩行先生に講演いただく。</p> <p>3) 支部総会次第案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時・場所 2019 年 2 月 21 日 (木) 午前 10:00～11:30 日本橋公会堂 (日本橋蛸殻町) ・議事 ①2018 年事業活動報告、②2018 年決算報告、③2019 年事業活動計画、④2019 年収支予算。 ・報告 本部総会報告
事務局	<p>11 月 30 日付にて、キッコーマン(株)から出向の杉崎祐司氏が退職。12 月 3 日付にて、キッコーマン(株)の小幡明雄氏が事務局次長として就任した。</p>